

脱原発をめざす首長会議会員からの追悼のメッセージ

馬場さん、

貴方の訃報を知って出てきた言葉は「鬼哭啾啾」でした。浪江町全町民 2 万 6000 人、原発災害に故郷を逐われ、他郷に彷徨うこと 7 年有余、その長として精魂を使い果たし終に逝く。これ以上の非情、無情はありますか。

わが東海村は幸いにして紙一重で原発災害を回避、もし破綻していれば、馬場さんと同じ道を歩んだでしょう。他人事ではなく馬場さんを見守っていた。馬場さんの姿をテレビで見るたび「ガンバレ馬場さん！」と声援を送っていた。だが、悲しいかな、拝見する度に憔悴していくのが見えていた。なんと残酷な！

戦慄なく考えられない、全町民が故里を逐われ、帰るべき地も帰還困難区域、帰還準備区域など千々に分断されてしまった町長の苦悩を。

あの日以来町民のこと、町のことを考え、安穩に身を横たえる日はなかったでしょう。一個人に負わされた現代の残酷物語です。

馬場さん！ よく頑張りましたね。本当にお疲れさまでした。二度と過ちを繰り返さないよう誓います。どうか安らかにお眠りください。

脱原発をめざす首長会議・世話人
前茨城県東海村長 村上達也

.....

私は馬場町長のスピーチを、浜松市で、牧之原市で、福島市で聞きました。こみ上げる悔しさと怒りが聴衆に伝わってくる名演説でした。

そして我々が発足させた 脱原発をめざす首長会議にも加わってくれました。湖西市長であった私は浪江町に職員を 1 人 3 年間派遣しました。私も二本松市に置かれた浪江町役場を 2 回、訪問しました。

馬場町長は、体調不良の細身の体ではありましたが、しっかりした口調でしたので、まだまだご活躍できると感じた 2 年半前でした。

やり残したことがいっぱいある中での他界なので、次の町長が、馬場町長の意向を受け継いで頂きたい、と願うばかりです。ご冥福をお祈りいたします。

脱原発をめざす首長会議・世話人
原発ゼロ自然エネルギー推進連盟・幹事
前静岡県湖西市長 三上元

7月2日、福島県浪江町の馬場町長のお通夜へ、弔問に伺いました。

全国報徳研究市町村協議会の仲間であり、特に福島第一原発の至近立地でもある、浪江町・大熊町・飯舘村には、ほぼ毎年お訪ねし、町長・村長の皆さんから復興への状況を伺ってきました。

そうした中、馬場町長も度々お訪ねし、苦渋の思いと、原発事故へのやり場のない怒りを直接伺ってきただけに、昨年3月に町役場が浪江町に戻り、これからいよいよ復興への本番を迎える中での町長の強い意欲と、それ故のご苦勞を察していたところでした。小田原市からの派遣職員も5年目となっており、全くの微力ながら、町長をはじめとする浪江の皆さんを少しでもお手伝いできたらと、取り組んできたところです。

通夜の会場にて、棺の中におられた馬場町長に、たいへんなご勞苦へのねぎらいの言葉を掛けさせていただきました。

町の復興へはまだまだ道半ば、さぞご無念であったろうと思いますが、同時に、町長としてやれることは全てやってきた、あとは頼む、といったご心中だったのではないのでしょうか。

菩提寺のご住職は読経に先立つ挨拶の中で、馬場町長のご苦勞の様子を「まさに尽瘁」と表現されました。町長とお目にかかったときの話題はどうしても厳しいお話が多かったため、笑顔を拝見することは少なかった気がしますが、優しく微笑む遺影に、改めて、心からのご冥福をお祈りいたしました。

脱原発をめざす首長会議・世話人
神奈川県小田原市長 加藤憲一

.....

このたびは、馬場前浪江町長の訃報に接し、心よりお悔み申し上げます。

「町残し」へ激闘された2666日は、我々には想像もできない苦難の日々であり、避難生活の長期化により、震災（原発事故）関連死の惨状を目の当たりにしながらもなかなか対策が進まない状況に嘆かれたことでしょう。馬場前浪江町長の穏やかなお顔を思い浮かべ、浪江町民の皆様、ご家族の皆様のお気持ちを思うと心が沈む思いです。

憲法13条の「幸福追求権」を侵害し、前文の「平和のうちに生存する権利」を奪ったのが原発です。私たちは、馬場前浪江町長の遺志を引き継ぎ、脱原発で安全安心な社会をつくり、未来に責任ある行動を起こしてまいります。

8月12日の「偲ぶ会」を開催されるにあたりまして、参上しお悔みを申し述べるのが本意ではございますが、所用のためお伺いすることができませんので、略儀ながら書中にてお悔みを申し上げます。

心より故人のご冥福をお祈り申し上げます。

脱原発をめざす首長会議・世話人
滋賀県米原市長 平尾道雄

馬場町長には、2015年3月14日、仙台市の国連防災世界会議で首長会議が主催したパブリックフォーラム「原子力防災と自治体の役割 その教訓と課題」にご登壇いただきました。翌日の福島民報は、「馬場町長は避難生活の長期化により、震災（原発事故）関連死に歯止めがかからない現状を嘆いた。『関連死こそが原発の惨状を表している。この対策が行政の最優先課題となっている』と語った。」と伝えています。

穏やかな口調の一方で、こみあげる涙を抑えきれずにお話をされていたお姿が今も目に焼き付いています。馬場さんは「（町に）戻る人も、戻らない人も、迷っている人も浪江町民。町はその一人ひとりに寄り添っていく」とおっしゃっていました。苦悩しながら、闘い続けられた2666日だったのでしょ。どうか安らかにお休みください。

脱原発をめざす首長会議・事務局長
元東京都小金井市長 佐藤和雄

.....

馬場町長の訃報は、大変残念の一言です。馬場さんも、明らかに原発事故の被害者です。

馬場さんに初めてお目にかかったのは、2015年3月仙台で開催された国際防災世界会議でした。それまで、被災後のニュースでお姿を何度か拝見していました。避難と帰村に揺れる村民との対話の中で、苦悩されるお顔は忘れることができません。

おそらく、被災当初は、一日も早く帰村するのだという願いが、村民を支えていたのでしょ。汚染された村の現実と、村民の思いをどう受け止めたら希望をつないでいけるのだろうか。住民の生命の責任を一身に背負った首長の、人知れずの闘いがあったのだと思います。

馬場さんには一度お話をお聞きしたいとの思いも仙台でかない、首長会議の会員のお誘いにも快く応じてくださいました。これからは、被爆した首長の生き証人として、ご活躍いただきたいとは思っていたのですが、当時からお顔色もすぐれず、気力で村民のために闘い抜いているとの印象でした。やはりという思いと、悔しい思いでいっぱいです。

私たち首長会議は、馬場さんの無念の思いを、遺言として引き継いでいきます。

心から、ご冥福をお祈りいたします。

脱原発をめざす首長会議・前事務局長
元東京都国立市長 上原公子

ご訃報に接し、心からお悔やみを申し上げます。

常に町民一人一人に寄り添い、命を懸けて大震災、原発事故からの復旧復興に取り組まれましたことに心から敬意を表し 感謝を申し上げます。

安らかにご永眠されますようお祈りいたします

福島県二本松市長 三保恵一

.....

ご訃報に接し衷心より哀悼の意を表します。

馬場有様の浪江町民一人ひとりに寄り添った復興の取り組みとその情熱の深さに感銘いたし、自分達のまちづくりにも多くのことを学びました。

在りし日のお姿を偲びつつ、心よりご冥福をお祈り申し上げます。

長野県木曾町長 原久仁男

.....

馬場有前浪江町長のご逝去の報に接し、謹んでお悔やみ申し上げます。

東日本大震災の被害と原発事故による全町避難という未曾有の出来事のなか、7年以上もの間、町民の生命と財産を守り、生活の再建を図るため、全身全霊で指揮を取られた馬場前町長に改めて深く敬意を表します。全町に出されていた避難指示が帰還困難区域を除き解除されるなど、復興に向けた大きな歩みを進めるなかの退任であり、大変ご無念であったろうと存じます。

放射能汚染による環境負荷や、避難指示によりふるさとや生活を奪われた方々の苦労や悲しみは多大なものです。地震大国である日本では再び原発事故が起こる可能性は否定できず、被害回復までの道のりは後世への大きな負担となります。人類が制御しきれない「原子力」という力には頼らない社会を実現するため、今後も「脱原発」の声を絶やすことなく、発信を続けてまいります。

馬場前町長のご冥福をお祈りいたします。

東京都武蔵野市長 松下玲子

福島第一原発の原子炉事故により全町強制避難を余儀なくされ、ようやく避難指示解除を受け入れ町の再興の足がかりをつくって旅立たれた馬場有町長に謹んで哀悼の意を表します。

列島全域が猛暑に包まれる中で、電力不足の解決には、原子力発電の復権をいう声が始まっています。また、工事認可を得てリニア中央新幹線工事が進んでいますが、運転に莫大な電力量を要することから、原子力発電所の再稼働を求める力が働き、運転容認へと動くことも懸念されます。

リニア中央新幹線南アルプストーンネル工事残土搬出の、喉元の村長として、原子力に囚われないエネルギーの利用を言い続けて参りたいと考えております。

馬場町長のご冥福をお祈りします。

長野県中川村長 宮下健彦

.....

馬場 有さん。

多摩市に何度かお越しいただきましたね。

昨年(2017年)の2月18日に開催された「せいせき桜まつり」の「復興フォーラム」で、私もパネリストと一緒に登壇しましたが、あなたは「原発はコリゴリ。これからは再生可能エネルギーが大切。浪江町を元に戻す」と力強く語っておられましたね。

京王線聖蹟桜ヶ丘駅周辺の商店会の皆さんで構成されている桜ヶ丘商店会連合会は東日本大震災以降、東北の被災地、特に浪江町を応援してきました。商店会長の平清太郎さんの熱い想いと馬場前町長の強い後押しもあり、浪江町と多摩の子どもたちとの交流も進みました。

馬場前町長が掲げた「まちのこし」。私も精一杯応援してまいります。原発により二度とふるさとを捨てるような悲劇を起こしてはなりません。安らかにお眠りください。

東京都多摩市長 阿部裕行

.....

馬場有様を偲ぶ会にあたり謹んでお悔やみ申し上げます。

波江町民に寄り添い、被災者支援と町の復興に全力を注いだ、ご生前のご功績を偲び、心よりご冥福をお祈りいたします。

茨城県小美玉市長 島田穰一

「指示なんて待っていらなかった。町民の安全を守るため、国や県、電力会社からの指示が出る前に町民に避難を呼びかけた。正しい判断だったと思うが相当な批判もあった。でも町民の命や安全を守るための苦渋の判断だった。逢坂さんも町長をやっていたから分かるだろう。」

東日本大震災の発災直後、各省の政務三役が続々と現地入りした。数多くの政治家が被災地に出向くことが、現地の迷惑になってはならない、私はそんな思いを持っていた。発災直後の混乱期を少しだけずらし、私は総務大臣政務官として被災地回りをした。その際に、馬場町長さんが涙とともに、初対面の私に語ってくれたのが冒頭の言葉だ。

避難先の小さな部屋で寝泊まりしていた馬場町長さんは、私の到着を待っていたかのように、堰を切ったように発災直後のことを語り始めた。浪江町民を何としても守るという思いがビシビシと伝わる。これこそが首長の真の責任感だと強く実感した。

馬場町長さんのご冥福を心からお祈りします。

元北海道ニセコ町長 衆院議員 逢坂誠二

.....

前浪江町長 馬場 有様のご逝去の報に接し、謹んで哀悼の意を表します。

私の市長としての原点は、災害ボランティアで1週間、寝泊りし、目の前の現実に愕然とした被災地での日々です。

馬場 有さん、2011年3月のあの日以来、あなたの怒りや悲しみ、そしてこの間の苦悩、心中察するに余りありますが、この7年余り、被災者への支援と町の復興のため専心努められましたことに心より敬意を表します。

目の現実と闘いながらも、じっと遠くを見詰めるあなたの真摯なお姿が見えないことに、今、深い寂しさと悲しみを禁じ得ません。

冷静沈着にして、物事を正しく判断され、温厚誠実なその人柄と豊かな包容力は、地方自治に携わる者として範とするものであります。

あなたのその志は共有され、必ずや継がれるはずです。

心よりご冥福をお祈りいたします。

香川県丸亀市長 梶正治

住民の生命を預かる自治体の長として 2011 年 3 月 11 日以来、被災者支援と町の復興に陣頭指揮を執られた馬場前浪江町長は国や東京電力の責任を問い続ける一方で、「どこに住んでいても浪江町民」と全国に散らばる避難者のもとに幾度も足を運ばれました。放射線量や生活環境への不安が残る中で、ふるさとを次世代へ引き継ぐ「まち残し」を掲げて避難指示の一部解除を受け入れるなど、最後まで苦渋に満ちた決断を持って復興に尽力された馬場前浪江町長に深く敬意を表します。

復興に命を削られた馬場前浪江町長の思いを受け継ぎ、脱原発と自然エネルギーへの転換を進めていくことを改めて決意するところです。また、これからも息の長い被災地支援を継続していきたいと思えます。

心よりご冥福をお祈りいたします。

東京都世田谷区長 保坂展人

.....

東日本大震災における東京電力福島第一原発の事故からおよそ七年半、帰宅困難地域にある多くの住民が避難生活を余儀なくされ、現在でも、つくば市内には浪江町民 37 世帯・92 人の方が生活しています。

ある日突然、住む場所や思い出を奪われ、家族や友人と離れ、そして失う悲しみは、想像を絶します。その一人ひとりの思いを背負い、胸が張り裂ける思いを何度も何度も経験してもなお、地方自治体の長として、原発事故と正面から向き合い、町民一人ひとりに寄り添ってこられた馬場町長の姿は、浪江町民の希望そのものだったに違いありません。

首長は、住民の生命と財産を守り、先人たちにより受け継がれてきた資産を、様々な課題を克服しながら、次世代へ継承・発展させ持続的なまちづくりを進めていく責務があります。すべての避難者が避難者でなくなるその日まで、市政に全身全霊を傾けることを馬場町長へお誓いし、哀悼の意を表します。

茨城県つくば市長 五十嵐立青